

## しまもとスマイルプラン～島本町男女共同参画社会をめざす計画～ WEB アンケート調査結果（案）

### 1) 調査の名称および実施主体

「しまもとスマイルプラン～島本町男女共同参画社会をめざす計画～アンケート」(島本町総合政策部 人権文化センター)

### 2) 調査目的

男女共同参画に関する住民の意識等について現状を把握するとともに、「第3期島本町男女共同参画社会をめざす計画」に反映することを目的とする。

### 3) 調査時期

令和4年8月1日～令和4年8月31日

### 4) 調査対象

町内在住16歳以上

### 5) 調査方法

WEB フォームにより実施（町公式 LINE にて配信するとともに、町広報誌にてアンケートの実施を周知し、記事内の QR コードから WEB フォームに誘導するなど、回答を募った。）。

### 6) 回答数

276件

### 7) 回答者の性別

女性	男性	不明・無回答等
202	71	3

### 8) 報告書の見方・留意点

- 図表中の「n」とは、集計対象者実数（あるいは該当対象者実数）をさしています。
- 図表の数値（%）は、すべて小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。そのため、単数回答を求めた設問でも、比率の合計が100%にならない場合があります。
- クロス集計の表内の「全体」には性別不明者も含まれます。
- 複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を超えます。

## 1. 回答者について

【問1】あなたの性別を教えてください。

区分	件数
①女性	202
②男性	71
③どちらでもない	1
④答えたくない	2
合計	276

【問2】あなたの年齢を教えてください。

区分	件数	女性	男性	どちらでもない	答えたくない
①10代	1	1	0	0	0
②20代	11	8	3	0	0
③30代	40	33	7	0	0
④40代	59	49	9	1	0
⑤50代	58	41	15	1	1
⑥60代	58	41	17	0	0
⑦70代	40	20	20	0	0
⑧80代以上	9	9	0	0	0
合計	276	202	71	2	1

■回答者は、女性では40代が最も多く、50代と60代が同数でつづいています。男性では、70代が最も多く、60代、50代がつづいています。女性の方が男性に比べて若い年齢層が回答している傾向にあります。

【問3】あなたは結婚をしていますか。

区分	全体 n=276	女性 n=202	男性 n=71	どちらでもない	答えたくない
未婚	26	17	8	1	0
既婚 (事実婚含む)	223	165	56	0	2
死別・離別	24	18	6	0	0
無回答	3	2	1	0	0

【問4】あなたの就労状況について教えてください。

区分	件数	女性	男性	どちらでもない	答えたくない
正社員・職員	93	59	33	0	1
非正規社員・職員	15	12	3	0	0
パート・アルバイト	51	46	4	1	0
自営業・家族従業員	13	6	6	0	1
家事専業	76	67	9	0	0
学生	3	3	0	0	0
無職(家事専業除く)	22	7	15	0	0
その他	3	2	1	0	0
合計	276	202	71	1	2

- 就労している人の就労形態をみると、日本の男女それぞれの就労形態の傾向と同様の傾向を示しています。

【問5】配偶者の就労状況について教えてください。

区分	件数	女性	男性	答えたくない
正社員・職員	127	109	17	1
非正規社員・職員	11	7	4	0
パート・アルバイト	13	4	8	1
自営業・家族従業員	11	8	3	0
家事専業	37	19	18	0
学生	0	0	0	0
無職(家事専業除く)	15	12	3	0
その他	5	3	2	0
無回答	4	3	1	0
合計	223	165	56	2

- 女性では、配偶者が「正社員・職員」と答えた人が最も多くなっています。男性では、配偶者が「家事専業」と答えた人が最も多いものの、「正社員・職員」も均衡しています。
- 問4で「正社員・職員」と答えた女性59人のうち、配偶者も「正社員・職員」と答えたのは40人(67.8%)でした。これに対し、問4で「正社員・職員」と答えた男性33人のうち、配偶者も「正社員・職員」と答えたのは14人(42.4%)にとどまっています。

【問6】男性や女性が出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

区分	件数	割合 (n=276)	女性 (n=202)		男性 (n=71)	
			件数	割合	件数	割合
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり	141	51%	100	50%	40	56%
部下の育児や介護に対して理解し応援する上司の姿勢	101	37%	78	39%	21	30%
労働時間の短縮や残業・転勤の免除	81	29%	64	32%	17	24%
在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	98	36%	72	36%	25	35%
育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援	116	42%	77	38%	37	52%
育児や介護のための施設やサービスの充実	118	43%	84	42%	34	48%
働き続けることに対する家族や周囲の理解や協力	71	26%	57	28%	14	20%
家事や育児、介護等への家族の参加・協力	65	24%	50	25%	15	21%
その他	3	2%	1	0.5%	2	3%

- 男女ともに「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり」が最も多く、女性の50%、男性の56%が選択しています。次いで、女性では「育児や介護のための施設やサービスの充実」、男性では「育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援」が多くなっています。

## ○年代別

	20～40代 女性		50～70代 女性		20～40代 男性		50～70代 男性	
	n = 90		n = 102		n = 19		n = 52	
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり	39	43%	56	55%	12	63%	28	54%
部下の育児や介護に対して理解し応援する上司の姿勢	29	32%	43	42%	4	21%	17	33%
労働時間の短縮や残業・転勤の免除	27	30%	33	32%	7	37%	11	21%
在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	41	46%	31	30%	7	37%	18	35%
育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援	39	43%	36	35%	11	58%	26	50%
育児や介護のための施設やサービスの充実	35	39%	46	45%	9	47%	25	48%
働き続けることに対する家族や周囲の理解や協力	20	22%	31	30%	2	11%	12	23%
家事や育児、介護等への家族の参加・協力	25	28%	23	23%	4	21%	11	21%

- 20代～40代の女性では、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」を選択した人が最も多く、同年代の男性や他の年代の女性とは異なる特徴がみられます。
- 一方、20代～40代の男性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり」を選択した人が6割を超え、同年代の女性と比べて20ポイント高くなっています。

## ○就労状況別

・問4で「正社員・職員」と答えた人

	女性		男性	
	n = 59		n = 33	
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり	28	47%	22	67%
部下の育児や介護に対して理解し応援する上司の姿勢	22	37%	13	39%
労働時間の短縮や残業・転勤の免除	18	31%	8	24%
在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	33	56%	16	48%
育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援	22	37%	15	45%
育児や介護のための施設やサービスの充実	18	31%	15	45%
働き続けることに対する家族や周囲の理解や協力	13	22%	3	9%
家事や育児、介護等への家族の参加・協力	15	25%	5	15%
その他	1	2%	0	0%

- 女性では、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」を選択した人が最も多く、男性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり」を選択した人が6割を超え、同年代の女性と比べて20ポイント高くなっており、年代別集計における20代～40代の傾向とおおむね同様の傾向を示しています。
- これらの傾向から、性別にかかわらず休業制度が利用しやすいこと、柔軟な働き方ができる職場環境があることが、出産・育児や介護と就労の両立を図るうえで、特に有効であることが伺えます。

・問4で「家事専業」または「無職」と答えた人

	女性		男性	
	n = 74		n = 24	
育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり	42	57%	11	46%
部下の育児や介護に対して理解し応援する上司の姿勢	24	32%	4	17%
労働時間の短縮や残業・転勤の免除	24	32%	6	25%
在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	20	27%	6	25%
育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援	24	32%	15	63%
育児や介護のための施設やサービスの充実	34	46%	11	46%
働き続けることに対する家族や周囲の理解や協力	29	39%	8	33%
家事や育児、介護等への家族の参加・協力	16	22%	7	29%
その他	1	1%	1	4%

■ 女性では「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場づくり」、男性では「育児休業・介護休業中の賃金の補填などの経済的支援」を選択した人が最も多くなっています。

■ 「正社員・職員」と答えた人と比べ、男女ともに「働き続けることに対する家族や周囲の理解や協力」を選択した人の割合が高いことも特徴です。社会制度や職場環境の充実とともに、周囲の人々の理解・協力なども望まれていることが伺えます。

【問7】学生以外で現在働いていないかたにお尋ねします。あなたが現在しごとをしていない最大の理由は何ですか。

	全体	女性		男性	
	n=98	n=74		n=24	
子どもが保育施設に入れなかったから	1	1	1%	0	0%
子どもが小さいから	12	11	15%	1	4%
家族に介護を必要とする人がいるから	4	4	5%	0	0%
経済的に必要がないから	8	6	8%	2	8%
仕事以外にしたいことがあるから	4	3	4%	1	4%
病気療養中や健康に不安があるから	4	4	5%	0	0%
高齢だから	46	32	43%	14	58%
やりたいと思える仕事が見つからないから	2	2	3%	0	0%
前の仕事を辞め、求職中だから	5	4	5%	1	4%
未回答	4	3	4%	1	4%
その他	8	4	5%	4	17%

■ 「子どもが小さいから」、「家族に介護を必要としている人がいるから」を理由に挙げた人は女性に多く、依然として育児や介護の負担の比重が女性に偏っていることが伺えます。

(「その他」の記述)

・「家族に障害があるから」(2件)、「退職した配偶者の世話」、「地域での活動がある」など

【問8】あなたが避難生活を送ることになったと仮定してお答えください。災害などの緊急時における避難所で、性別に配慮した対応が必要と思われるものはどれですか。(3つまで)

	全体		女性		男性	
	n=	277	n=	202	n=	71
男女別のトイレを設置し、女性用のトイレの数は男性用のトイレの数よりも多くする	152	55%	118	58%	32	45%
着替えや授乳のための部屋(場所)	125	45%	92	46%	32	45%
女性だけだ(男性だけで)くつろげる部屋(場所)	49	18%	36	18%	11	15%
安心して下着などが干せる洗濯物干場	40	14%	30	15%	10	14%
性的な被害を受けないための安全策	105	38%	79	39%	25	35%
避難所を運営するメンバーに男女が同じように関わる	81	29%	60	30%	19	27%
プライバシーを確保できる仕切り	197	71%	143	71%	53	75%
心配事などを相談する窓口	48	17%	30	15%	18	25%
その他	4	1%	2	1%	2	3%

■男女ともに「プライバシーを確保できる仕切り」を選択した人が7割を超え、最も多くなっています。

■女性では、6割近くの人が「男女別のトイレを設置し、女性用のトイレの数は男性のトイレの数よりも多くする」を選択しており、2番目に多くなっています。

(「その他」の記述)

・「三つでは足りません。ここに上がってある例をできるものは全てやるくらいの気構えが欲しいです。」、「犬と一緒に過ごせることを願います。」など

## ○女性／年代別

総数 (n=202)	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上	
	n=1	n=8	n=33	n=49	n=41	n=41	n=20	n=9								
男女別のトイレを設置し、女性用のトイレの数は男性用のトイレの数よりも多くする	0	5 (63%)	10 (30%)	25 (51%)	26 (63%)	30 (73%)	15 (75%)	7 (78%)								
着替えや授乳のための部屋(場所)	1	5 (63%)	24 (73%)	18 (37%)	14 (34%)	15 (37%)	11 (55%)	4 (44%)								
女性だけだ(男性だけで)くつろげる部屋(場所)	0	3 (38%)	7 (21%)	10 (20%)	7 (17%)	8 (20%)	0 (0%)	1 (11%)								
安心して下着などが干せる洗濯物干場	1	2 (25%)	4 (12%)	2 (4%)	7 (17%)	10 (24%)	2 (10%)	2 (22%)								
性的な被害を受けないための安全策	0	1 (13%)	18 (55%)	29 (59%)	19 (46%)	8 (20%)	4 (20%)	0 (0%)								
避難所を運営するメンバーに男女が同じように関わる	0	0 (0%)	9 (27%)	15 (31%)	11 (27%)	15 (37%)	6 (30%)	4 (44%)								
プライバシーを確保できる仕切り	0	6 (75%)	20 (61%)	36 (73%)	32 (78%)	31 (76%)	14 (70%)	4 (44%)								
心配事などを相談する窓口	1	1 (13%)	4 (12%)	9 (18%)	4 (10%)	6 (15%)	5 (25%)	0 (0%)								

## ○男性／年代別

総数 (n=71)	10代		20代		30代		40代		50代		60代		70代		80代以上	
	n=0	n=3	n=7	n=9	n=15	n=17	n=20	n=0								
男女別のトイレを設置し、女性用のトイレの数は男性用のトイレの数よりも多くする	—	0 (0%)	3 (43%)	2 (22%)	7 (47%)	8 (47%)	12 (60%)	—								
着替えや授乳のための部屋(場所)	—	1 (33%)	4 (57%)	6 (67%)	6 (40%)	5 (29%)	10 (50%)	—								
女性だけだ(男性だけで)くつろげる部屋(場所)	—	0 (0%)	0 (0%)	2 (22%)	3 (20%)	2 (12%)	4 (20%)	—								
安心して下着などが干せる洗濯物干場	—	0 (0%)	1 (14%)	1 (11%)	3 (20%)	2 (12%)	3 (15%)	—								
性的な被害を受けないための安全策	—	0 (0%)	5 (71%)	6 (67%)	6 (40%)	7 (41%)	1 (5%)	—								
避難所を運営するメンバーに男女が同じように関わる	—	0 (0%)	3 (43%)	2 (22%)	3 (20%)	3 (18%)	8 (40%)	—								
プライバシーを確保できる仕切り	—	3 (100%)	5 (71%)	5 (56%)	13 (87%)	13 (76%)	14 (70%)	—								
心配事などを相談する窓口	—	1 (33%)	0 (0%)	2 (22%)	2 (13%)	8 (47%)	5 (25%)	—								

■ 30代の女性、30代～40代の男性では、「着替えや授乳のための部屋(場所)」を重視する傾向にあります。これらの年代では「性的な被害を受けないための安全策」を選択する人の割合も高くなっています。

■ 60代の男性では、半数近くの人が「心配事などを相談する窓口」を選択しており、女性や他の年代の男性とは異なる特徴となっています。



【問9】あなたはこれまでに、配偶者・パートナーや交際相手から次のようなことをされたことがありますか(3つまで)

区分	全体(n=273)	女性(n=202)	男性(n=71)
命に関わるくらいのひどい暴力を受ける	0	0	0
命に関わるほどではないが、殴る、蹴るなどの暴力を受ける	11	9	2
お金を取り上げるなど経済的に苦しめられる	5	5	0
嫌がっているにも関わらず性的な行為を強要されたり、妊娠に協力しない	14	14	0
親の家に行かせないなど行動制限をされる	5	5	0
交友関係や電話、毎日の行動を細かく制限される	13	11	2
何を言っても無視される	11	9	2
「誰のおかげで生活できるんだ」「お前は馬鹿だ、ダメな人間だ」など暴言を言われたり、怒鳴られたりする	12	11	1
特になし	229	162	67
その他	5	5	0
未回答	4	4	0

- 男女ともに「特になし」と答えた人が多数派となっていますが、女性では約15%の人が何らかのDVを受けたことがあると答えています。男性でも少数ながら被害を経験したことがある人がいます。
- 女性では、「嫌がっているにも関わらず性的な行為を強要されたり、妊娠に協力しない」（性的暴力）を選択した人が最も多く、「交友関係や電話、毎日の行動を細かく制限される」（社会的暴力）と『誰のおかげで生活できるんだ』『お前は馬鹿だ、ダメな人間だ』など暴言を言われたり、怒鳴られたりする」（精神的暴力）が同数でつづいています。
- 「命に関わるくらいのひどい暴力を受ける」を選択した人はいませんでした。

【問10】「特になし」以外に選択した方にお尋ねします。そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(いくつでも)

区分	全体(n=43)	女性(n=40)	男性(n=3)
都道府県などの配偶者暴力相談センターに相談した	3	3	0
市町村など役所の相談窓口相談した	3	2	1
警察に連絡・相談した	6	5	1
法務局、人権擁護委員に相談した	0	0	0
弁護士やカウンセリング機関、民間シェルターなど民間の専門家に相談した	1	1	0
医療機関に相談した	1	1	0
家族・親戚に相談した	9	9	0
友人、知人に相談した	14	13	1
相談しなかった	23	21	2

■男女ともに半数以上の方が「相談しなかった」と答えています。

■女性が相談した相手としては、「友人、知人」が最も多く、「家族・親戚」がつづいています。公的機関や医療機関に相談した人は少数にとどまっています。

### ○相談相手(DVの被害別)

区分	n	命に関わるほどではないが、殴る、蹴るなどの暴力を受ける	お金を取り上げるなど経済的に苦しめられる	性的な行為を強要されたり、妊娠に協力しない	親の家にいかせないなど行動制限をされる	交友関係や電話、毎日の行動を細かく制限される	何を言っても無視される	暴言を言われたり、怒鳴られたりする
都道府県などの配偶者暴力相談センター	3	3	0	1	1	2	0	1
市町村など役所の相談窓口	3	3	1	0	0	3	0	2
警察	6	6	2	1	1	3	1	2
法務局、人権擁護委員	0	0	0	0	0	0	0	0
弁護士やカウンセリング機関、民間シェルターなど民間の専門家	1	0	0	0	0	0	1	1
医療機関	1	1	0	0	1	1	0	0
家族・親戚	9	4	3	2	1	2	2	2
友人、知人	14	6	2	3	2	5	4	4
相談しなかった	23	4	2	11	2	7	6	7

■「相談しなかった」と答えた人の割合は、「性的な行為を強要されたり、妊娠に協力しない」(性的暴力)を経験した人では8割近くにのぼり、他の類型に比べて際立って高くなっています。この行為類型では、「友人、知人」や「家族・親戚」に相談した人の割合も低くなっており、被害が潜在化しやすいことがわかります。

■「命に関わるほどではないが、殴る、蹴るなどの暴力を受ける」(身体的暴力)を経験した人の相談行動を見ると、約半数が「警察」及び「知人・友人」に相談しています。一方で、「相談しなかった」方も約36%いることから、潜在的な事案の存在が伺われます。

【問11】「相談しなかった」のみを選択したかたにお尋ねします。相談しなかったのはなぜですか。  
(3つまで)

	n	命に関わるほどではないが、殴る、蹴るなどの暴力を受ける	お金を取り上げるなど経済的に苦しめられる	嫌がっているにも関わらず性的な行為を強要されたり、妊娠に協力しない	親の家に行かせないなど行動制限をされる	交友関係や電話、毎日の行動を細かく制限される	何を言っても無視される	「誰のおかげで生活できるんだ」「お前は馬鹿だ、ダメな人間だ」など暴言を言われたり、怒鳴られたりする
どこに相談したらよいかわからなかった	7	1	1	5	0	3	2	1
恥ずかしくて誰にも言えなかった	3	0	0	2	0	0	1	2
相談しても無駄だと思った	10	2	2	5	0	3	3	3
自分さえ我慢したら何とかやっていけると思った	10	1	2	5	0	2	3	3
相談したことが相手に知られると仕返しを受けると思った	1	0	0	0	0	1	1	0
世間体が悪いと思った	3	0	0	2	0	1	1	0
自分にも悪いところがあると思った	3	0	0	1	0	0	0	2
相談することのほどではないと思った	11	1	1	5	2	4	2	4

- 全体では、「相談することのほどではないと思った」を選択した人が最も多く、「相談しても無駄だと思った」と「自分さえ我慢したら何とかやっていけると思った」が同数でつづいています。
- 回答者の約3割が「どこに相談したらよいかわからなかった」を選択していることから、相談窓口がまだ十分認知されていない可能性があります。

【問12】男女共同参画社会を推進するために、行政はどのようなことに力をいれたら良いと思いますか。(3つまで)

	全体		女性 n=202		男性 n=71		答えたくない、 どちらでもない n=3
行政の審議会委員や管理職など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	95	34%	65	32%	28	39%	2
男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる	38	14%	27	13%	11	15%	0
様々な情報を広く提供するなど周知・啓発活動を充実させる	50	18%	34	17%	16	23%	0
職場において男女の均等な取り扱いが図られるよう企業等に働きかける	73	26%	56	28%	17	24%	0
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	152	55%	122	60%	30	42%	0
子育てや介護中であっても仕事が続けられるような取組みを進める	172	62%	127	63%	45	63%	0
学校などで男女共同参画に関する学習を充実させる	82	30%	58	29%	22	31%	2
多様な性、多様な家族のあり方に関する取組みや啓発を進める	64	23%	45	22%	16	23%	3
その他	6	2%	4	2%	2	3%	0
未回答	2	1%	2	1%	0	0%	0

- 男女ともに、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような取組みを進める」が最も多く、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」がつづいています。
- 両立支援や働き方改革に関連する2項目が上位を占め、特に女性では6割を超える人がこれらの項目を挙げており、男女共同参画社会を推進する上で特に求められていることがわかります。

## ○女性／年代別

	女性 n=202		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
行政の審議会委員や管理職など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	65	32%	0	2	9	15	13	17	7	2
男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる	27	13%	0	1	6	7	4	7	2	0
様々な情報を広く提供するなど周知・啓発活動を充実させる	34	17%	0	1	1	7	10	9	5	1
職場において男女の均等な取り扱いが図られるよう企業等に働きかける	56	28%	1	4	10	12	9	14	3	3
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	122	60%	1	6	24	31	23	23	12	2
子育てや介護中であっても仕事が続けられるような取組みを進める	127	63%	0	6	20	30	29	24	13	5
学校などで男女共同参画に関する学習を充実させる	58	29%	0	0	10	19	8	11	6	4
多様な性、多様な家族のあり方に関する取組みや啓発を進める	45	22%	1	2	9	13	7	8	1	4
その他	3	1%	0	0	1	1	1	0	0	0

## ○男性／年代別

	男性 n=71		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
行政の審議会委員や管理職など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	28	39%	0	0	2	3	4	10	9	0
男性や女性の生き方や悩みに関する相談の場を充実させる	11	15%	0	1	0	1	4		5	0
様々な情報を広く提供するなど周知・啓発活動を充実させる	16	23%	0	0	1	0	5	3	7	0
職場において男女の均等な取り扱いが図られるよう企業等に働きかける	17	24%	0	0	1	3	2	7	4	0
仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める	30	42%	0	2	3	6	9	5	5	0
子育てや介護中であっても仕事が続けられるような取組みを進める	45	63%	0	2	5	7	10	10	11	0
学校などで男女共同参画に関する学習を充実させる	22	31%	0	0	2	2	4	6	8	0
多様な性、多様な家族のあり方に関する取組みや啓発を進める	16	23%	0	0	1	3	2	4	6	0
その他	2	3%	0	0	0	0	0	1	1	0

■年代別にみても、多くの年代の男女が「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような取組みを進める」、「仕事と生活のバランスがとれるよう男女ともに働き方の見直しを進める」ことを望んでいることがわかります。

■60代以上の男性では、「行政の審議会委員や管理職など政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する」ことを重視する人の割合が、女性や他の年代の男性と比べて高くなっています。

(「その他」の記述)

- ・給与面において差をつけるのは不平等だと思うが女性にとってやりやすい仕事と男性にとってやりやすい仕事があるのは当然の事で全てにおいて平等にする必要はないと思います。
- ・役場職員がこれら全ての事項について本気で考えること
- ・そもそも『男女共同』という言葉を使わずに生活できるような社会にして欲しい
- ・PTA、保護者会を解散させる。これらの組織は女性の労働力を無償という前提で運営されているものです。必要なものはお金をかけて外注したらよいのです。
- ・配偶者特別控除の実質金額を、今の最低倍に引き上げる。
- ・いまの世の中、要求が当たり前になっていませんか。工夫したり、自分達で考えてみることもっとあっても良いと思います。感謝の心、他を思いやる心を育てることがあっても良いと思います。してもらって当たり前の心はだめでしょう。我慢、もたまにはしないと。権利、自由を求めることと、勝手気ままとは違います。

【問13】その他、男女共同参画社会推進に関してご意見があればお聞かせください。(原文のまま記載しています。)

### 働き方や職場の取組に関するご意見

- ・育休に対して消極的な企業に罰金などを科すようなペナルティーを設ける
- ・子育て中の就労について理解はするが溜まっている仕事は本人任せという同僚や上司は少なくないはずです。そこを指導する機関があれば良いのにと 생각합니다。
- ・コロナで有給がなくなりそうなので、特別な有給を取れる仕組みがほしい
- ・特に小学低学年位までのお母さん、お父さんが子供のために遠慮なく休めるような職場環境創りが必要。これはコロナ禍で浸透は進んだと思いますが、職場の対応次第かとも思います。
- ・会社では時間短縮勤務が3歳で終了します。もうすぐ3歳になる為、仕事を続けるかとても悩んでいます。子供との時間がほしい、しかし生活のために仕事はしなければならない、保育園もやっと慣れて楽しんでいるのに親の都合で辞めさせるのも可哀想で何か方法がないか悩んでいます
- ・現在勤めている大阪市内の職場で感じていることですが、管理職への教育が不可欠。今管理職についている男性は育児介護を女性に任せている人が多いので育児介護への理解が難しい印象。また、女性も平等に評価され昇進昇給できる取り組みが必要。
- ・現在私は建設業種の派遣会社にて採用の仕事をしています。建設業はまだまだ「男性が、男性が…」という考えが多く、人手不足が著しい業界でありながら、業界トップは女性もどんどん採用をしていかななくてはいけない意識にありつつ、現場まで意識の浸透はしていないのが現実です。業界トップクラスの人ではなく、現場で働く方々にもっと男女の参画が今っぽいということを伝えてほしいです。
- ・フルタイムで働くママです。職場の独身女性からの風当たりがきつく、なんとかならないものか…。こちらは学童お迎えや個人懇談、運動会などで、残業なしや休みなどを調整してもらってる身なので、肩身がせまく。子供いない人にはいない人の権利があることもわかっているが。何をしてもダメ出ししかされない。どうしたら彼女たちの反感をかわずにやっていけるのか知りたい。
- ・男性と女性の賃金格差をなくす。男性も女性も平等に育児休暇、介護休暇を取得できる環境。全ては企業側に委ねないといけない事だと思います。反対に行政はどこまで関与できますか？また関与するお考えですか？

### 子どもの教育に関するご意見

- ・男性が育児、家事をする事は生きていく上で当然の事と、小学校から教育することが何より大切だと思います。
- ・学校などで男女とも育休取るのが当たり前という教育をすることで未来の島本町がより良くなると 생각합니다。あとは夫婦で育休取っても困窮しないように手厚いサポートしてもらえればいい町だな…ってなると 생각합니다。
- ・子育て（保育）や介護を体験させる教育
- ・現時点で社会で多くの決定権を握っている年配の支配層・管理職者の考えはもはや変わらないと思う。これから先の未来を担う子供たち・若年層への教育を積極的に行い社会全体の風潮を変えていくべきと考える。
- ・男尊女卑や差別的考えを持つ層が政治的権力を持っている日本は、他国と比べて圧倒的に古い。もっとグローバルな視野を持ちお互いが尊重して、尊敬しあえる環境づくりを進めていける社

会にしたい。また義務教育の中でもこういった内容を取り上げ、教えるべき。次のリーダーを育てる第一歩になると思う。

- ・1人1人がもっと自立、自律して、感謝、思いやりの心を育てる子育てが大切です。甘やかして、気ままな子供ばかりが多くなると困った国になりませんか。教育と子育てが大切。

### 子育て支援施策に関するご意見

- ・保育所の点数関係なく、希望すれば入れる安心がほしい。(転居したいが、転居先で入れるか、等)
- ・子育てにいっぱいいっぱいになっている母親にやさしく接してくれる人たちがいっぱいの町になればいいなあ。
- ・私は7年前、子どもが保育園に入れず、育児休暇を延長しましたが、そのあと、二人目の妊娠がわかり、産休後すぐに産休になることが職場に負担をかけることや、また、職場の人からどう思われるか等が気がかりで、仕事を辞める選択をとりました。  
今、上の子が小学生になり、仕事を再開したい思いが出てきたのですが、前と同じ職種は難しく、また同じような待遇の仕事を望むことも無理です。一旦キャリアを失ってしまったことが、自分の選んだ決断だったとはいえ、今となっては後悔しかありません。  
また、産休に入った時は、復帰するつもりでいたので、やり続けていた仕事が途中で途絶えたことが、心に穴が空いたような、自分のいた居場所が急に無くなったような、残念な気持ちがあります。保育園に入れなかったのは、想定外で、タイミングが悪かったのは仕方がないのですが、あの時に、保育園に入れていたら、全く違う人生だったんだなあと思います。

### 防災対策に関するご意見

- ・Q8は、全て必要です。

### その他のご意見

- ・島本町の議員の男女比が半々であることをはじめ、島本町の取り組みをととても誇らしく思っています。私自身、男女共同参画社会について、関心が高いことから、ラインの情報発信や図書館の関連本の充実がとてもありがたいです。これからも引き続き取り組みを続けていただけると嬉しいです。
- ・島本町では女性の議員さんも多いし管理職の方も多い印象があります。
- ・女性が子育てをするべきという考えや価値観がまだまだ蔓延っている日本の現状なので、島本町の積極的な男女平等の取り組みを期待しています。
- ・この分野に於いて、まず行政として方針をしっかり定めてほしい。
- ・まだまだ日本は遅れているなど痛感している。大胆かつ、もっと予算もとって、取り組みを行政でしていかなければなかなか浸透しないと思います。
- ・男女共同参画と言われていく久しい。行政は、今まで何をして何ができなかったのか。また、何もしなかったのか。それらを過去に遡って整理してもらいたい。その動きがなければ、このアンケートの受け皿がないのではないかと。今回もアンケートを実施して、回答数に満足し、回答内容を集計して終わりってことにならないことも、行政に求めたい。出来ますか？
- ・島本町ではパートナーシップ制度がまだないと認識しています。またパートナーシップは同性同士だけではなく、事実婚など様々な理由で婚姻届をだしてない人にも広げている自治体も多くあり、島本町は遅れていると感じます。  
男女共同参画は人の意識がとても大事で教育や啓発が遠回りでも結果的に近道な気がしています。男女の役割意識が未だにはびこっていて、それらが無知とか無意識の中に存在するこ

とが厄介だと思います。ぜひ学んで考える機会を増やして欲しいです。

- ・家事は女性の仕事という意識が家庭においても職場においてもまだまだある様に思います。そこから変えていくことで女性の社会進出がもっと進む気がします。
- ・お互いが理解、尊重し合う家庭生活、社会活動環境を広く、地道な教育の高度な視点で当たり前のこととして育成していく。当然という環境を創造していく。
- ・一人一人の心掛けが変わらなくなかなか難しいと思います。
- ・男とか女とか関係なく評価されるべきだと思います。女性はこうあるべき、育児家事は女の仕事とまだ思っている人が多くて驚きます。子供の頃からそう刷り込まれているのでしょう。古臭く感じています。
- ・よく女は強くなったと言われてますが、仕事面ではまだまだ格差があります。家事にしても手伝ってやっていると。男性は能力のある女性を認めるのが嫌なのでしょうね。しかし、そういう男性を作ってるのも母親という女性なんだと思います。これからの世の中を変えていくには、母親になった女性達が変わっていく必要があると思います。意識を変えていくセミナー等が、母親教室等で行われたらって。
- ・男女共同参画と多様な性の在り方を同じカテゴリーでその対策を進めていくのは無理がある。其々が抱える課題の本質を見極め、的確な施策をうつべきだと思う。
- ・男女共同参画にあたっては、性別にとらわれない発想が必要だと思います。生物学的知見以外は男女同じだけの支援が必要です。男性が強者で女性が弱者という時代は終わっています。女性目線を入れすぎず、仕事も家庭も、男女が同じだけ責任を負うためにどうあるべきかを議論してほしいです。
- ・男女だけではなく障害がある男女の事も考えて欲しかった
- ・男女平等仕事も報酬もできれば体力も考慮されていいと思います。
- ・女性でなければ出来ないこと、また男性でなければ出来ないことがあると思います。そのバランスも大切にしながら、どちらが上、下ではなく、協力して、共生できる社会を願います。どうぶつや、木々、植物も大切に作る町にも感謝しています。
- ・家庭でも、学校でもジェンダーフリーの環境作りを構築する。親の日頃の行動や発言の中に無意識に差別的な態度がある。
- ・個人の生い立ちや性格を含む個性もあるし、また夫婦の中での愛情の問題もあるし 一概にはいかないと思う。特に戦前生まれは時代背景もまだまだ男尊女卑が横行していたし。これからの若い人には もっと相手を思いやる、いたわる、又は感謝を言葉で表現できる心を豊かにしてほしい。 そうすれば共同で家事をし、育児をし、助け合っ家庭を作ることができるのでは？ と。
- ・日本は、世界と比較して、まだまだ女性が家を守り、男性が外に出て働く図式が出来上がっていて、無意識で、女性が子育て家事をする。男性は手伝うかたちです。企業でも、女性は稼ぎ頭でなければ、アシスタントなどメインの仕事がなかなか回ってきません。役員も、国会議員も男性だらけです。まず、女性の意見もしっかり聞いてもらい、どうすれば上手く世の中回るのか？みんなが幸せと思えるのか？が大切かなと思います。フランスのような結婚にこだわらない世の中が、1番いいのかもしれないね。
- ・男女平等に生活することは無理なこと。男性は男性の出来ること。女性は女性の出来ること。男性女性共に出来ること。それぞれの性の違いを差別ではなく尊重しあえる社会になって欲しいものです。
- ・女性の精神的な自立。保育など子供の施設を個人では無く社会で保証する仕組み作り。
- ・多様な性の観点から観念上の理解が以前に比べて許容されていますが、日本ではまだまだ、歴史的 文化的 アイデンティティ等の理由から社会を制約しているバイアスから自由になれない

と考えます。

- 子供にやさしい 老人に優しい街づくり。保育所の確保 特別介護施設の充実した環境  
阪急水瀬駅前ロータリー前に信号機を設置。とても危険に感じます。福祉が充実すれば人々が増える、男女で分けるのでは無く人に優しい街づくり。
- 大きな変化が必要な時、先入観や固定概念は邪魔をします。是非新しいメンバー構成で、先入観や固定概念を持たずに、何をすべきかにフォーカスをした議論をしてください。
- 幅広い年齢層の意見を聴く、場を設け話し合いを継続する
- 望ましいパートナー、望ましいファミリーの身近なモデルケースを取材し、どういうところが望ましいのか具体的に動画で紹介して、子どもや若者が理解できるよう啓蒙していく。
- 性別、年齢、最終学歴、写真など現時点で就職する際に履歴書に記入しなければならない。このような情報はなしで就職活動ができる社会になればいいと思う。例えば、得意なこと、出来ること、どんな資格を持っているなどだけで十分ではないかと。
- この回答の選択肢の中にも育児、介護は女がすることを前提に考えられているように思われます。そもそも学生の間は男女に身体能力以外の差はなく、男だから、女だからという分け方はされていないように思います。それが社会に出たとたんに、男が優勢にたつような世の中になっている。女を積極的に管理職につかせる。という言葉事態差別に感じます。人として見れば、男も女も関係ないですよ。男だから有能なわけでも女だから有能なわけでもないと思います。家事、育児の、家族参加？それ事態おかしいですよ。家事も育児も、生活ですよ。参加しないということは一人で暮らすのもおなじです。家族なら、参加、手伝うのではなく、一緒にするものです。

主婦も、主夫も同じです。女だから家事が得意なわけでも男だから仕事が得意なわけでもないです。力には差があるかもしれないし、身体には差があるかもしれないけど、全ての人に当てはまるわけではないですよ？全員人間として接していればいいんじゃないですか？こんな議題自体間違っているのでは？と、思います。

- 経験者の意見を出来るだけたくさん聞くべきではないでしょうか。

2022年現在 45歳から 60歳位までの方々を中心に。

45歳の根拠は、その頃に産休育休制度が企画実施運用されたと記憶しているからです。

学童保育も、国が立ち上げるなどといって頓挫し、がっかりした経験をしているのもこのころの人だと記憶します。そこに介護やその他の悩みを更にプラスで抱えている人もいらっしゃると思います。実際に苦労した方々の意見を聞かないことには何が問題なのかすら見えてきません。かといって、聞いたところで千差万別という矛盾点も出てきます。元々この課題が大きすぎて難しいのです。あまりにも長い間、日本は蓋をしてほっておきすぎたのだと思います。国レベルの案件です。

私の個人的意見は多々ありますが、難し過ぎて、どうすれば「女は～・男は～」と言っている人々が根本的なところから考え方を改め共同出来るのか、方向性すら述べる事が出来ないの、自分には今回のアンケートに回答する資格すら無いのではと勝手に思っています。

いえ、思いました。でも、あえて1意見とさせていただきます。